

# 1. 建設投資の概況

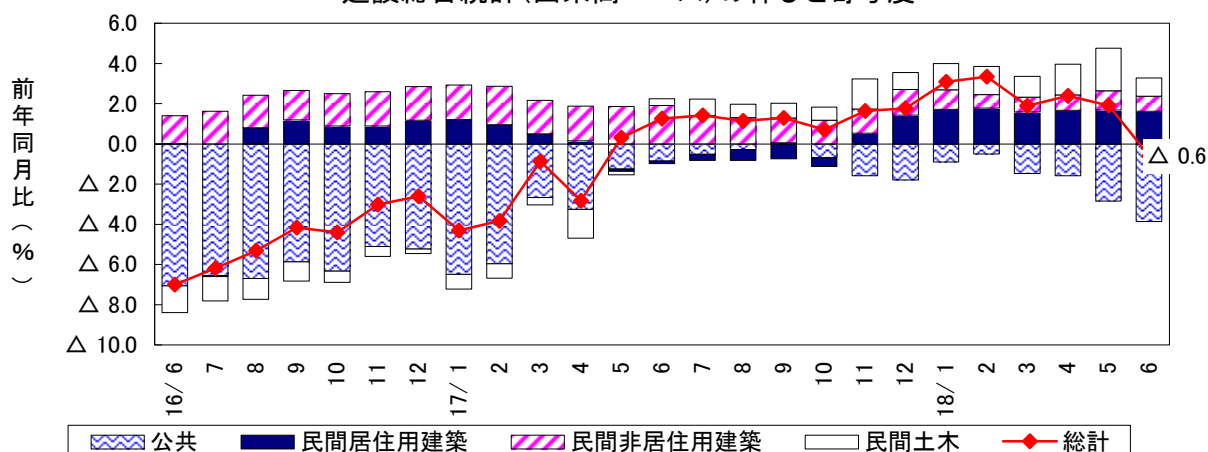
## (1) 建設総合統計（出来高）

6月の建設総合統計を出来高でみると、全体で3兆8,844億円と対前年同月比0.6%減少した。

公共は、建築が1,802億円（前年同月比2.3%減）、土木が8,561億円（同14.6%減）となり、全体では1兆363億円（同12.7%減）となった。

民間は、建築が2兆3,667億円（前年同月比4.1%増）、土木が4,814億円（同8.0%増）となり、全体では2兆8,481億円（同4.7%増）となった。

建設総合統計(出来高ベース)の伸びと寄与度



(単位：億円)

区分	年度年月	総計	民間	建築		土木	公共
				居住用	非居住用		
年	15年度	553,431	317,379	257,091	182,294	74,798	236,052
	16年度	529,330	326,160	269,803	186,261	83,542	203,170
	17年度	536,080	338,704	278,771	188,528	90,242	197,376
月	18年 3月	49,140	29,328	23,044	15,362	7,682	19,812
	4	41,280	27,112	22,187	14,840	7,346	14,168
	5	37,227	27,272	22,439	15,079	7,359	9,955
	6	38,844	28,481	23,667	16,020	7,648	10,363

(対前年比、%)

年	15年度	△ 6.3	0.4	0.1	△ 0.2	0.9	1.7	△ 14.1
	16年度	△ 4.4	2.8	4.9	2.2	11.7	△ 6.5	△ 13.9
	17年度	1.3	3.8	3.3	1.2	8.0	6.3	△ 2.9
月	17年 6月	1.3	3.1	3.1	△ 0.3	11.1	3.0	△ 2.7
	7	1.4	2.9	2.0	△ 0.7	8.3	7.4	△ 1.6
	8	1.1	2.2	1.4	△ 1.4	7.9	6.4	△ 0.8
	9	1.3	2.0	0.9	△ 2.0	7.8	7.1	0.1
	10	0.7	2.3	1.5	△ 1.2	7.7	6.4	△ 1.7
	11	1.6	5.6	3.6	1.6	8.0	15.5	△ 3.8
	12	1.8	6.2	5.8	4.4	8.7	8.3	△ 4.2
	18年 1月	3.1	7.0	5.7	5.3	6.5	13.5	△ 2.1
	2	3.3	6.6	5.1	5.5	4.2	13.5	△ 1.2
	3	1.9	5.9	5.1	5.2	4.8	8.8	△ 3.5
	4	2.4	6.3	4.6	4.7	4.4	14.4	△ 4.3
	5	1.9	6.8	4.5	4.3	5.0	19.0	△ 9.5
6	△ 0.6	4.7	4.1	4.1	4.0	8.0	△ 12.7	
累計	4月~6月	1.2	5.9	4.4	4.4	4.4	13.6	△ 8.5

資料：国土交通省「建設総合統計」

注) 平成12年度以降のデータに対して、遡及して計算結果等の見直しを行っている。

## (2) 公共機関からの受注工事

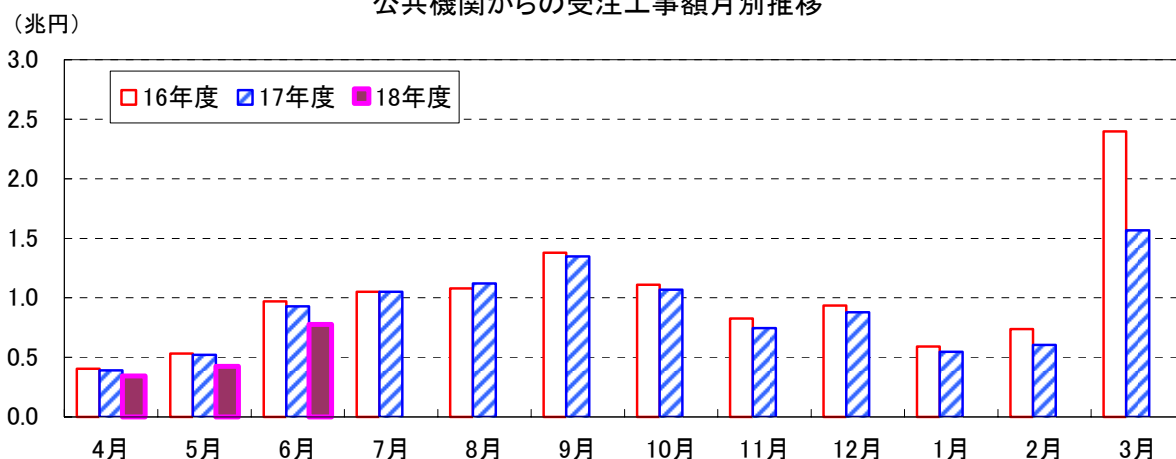
6月の公共機関からの受注工事額（1件あたり500万円以上の工事が対象。以下同じ。）は、国の機関2,057億円（前年同月比21.1%減、2ヶ月連続）、地方の機関5,714億円（同14.5%減、8ヶ月連続）となり、全体で7,771億円（同16.4%減、10ヶ月連続）となった。

工事分類別でみると、庁舎（前年同月比330.7%増、寄与度+4.7）、教育・病院（同8.8%増、寄与度+1.5）等が増加し、道路工事（同41.1%減、寄与度-12.3）、治山・治水（同38.5%減、寄与度-3.5）等が減少した。

さらに発注機関・工事分類別でみると、国以外の機関の道路工事（寄与度-8.6）、都道府県の道路工事（寄与度-3.4）等のマイナスの寄与度が大きい。

6月の大手50社調査では、公共工事は前年同月比2.6%減少（2ヶ月連続）した。

公共機関からの受注工事額月別推移

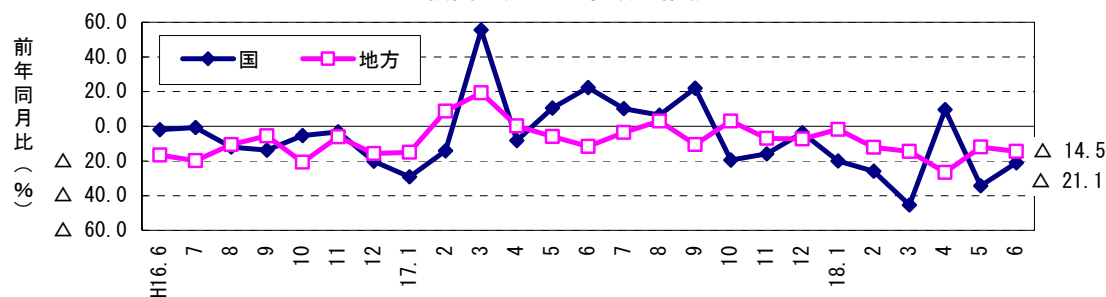


公共機関からの受注工事（対前年比、%）

区分 年度年月		総計	国の機関			地方の機関				
			小計	国	国以外の機関	小計	都道府県	市区町村	地方公営企業	その他
年	15年度	△ 17.5	△ 14.3	△ 18.8	△ 6.9	△ 19.0	△ 22.4	△ 15.0	△ 22.1	△ 20.5
	16	△ 5.6	4.1	7.9	△ 1.4	△ 10.4	△ 9.8	△ 10.9	△ 6.3	△ 15.2
	17	△ 10.2	△ 17.5	△ 23.3	△ 8.2	△ 6.1	△ 4.4	△ 10.4	19.6	△ 17.9
月	17年6月	△ 4.1	22.3	6.4	35.0	△ 11.6	6.2	△ 18.2	△ 29.4	△ 22.9
	7	0.1	10.2	28.1	△ 1.9	△ 3.6	17.6	△ 18.9	86.4	△ 31.6
	8	3.9	6.5	23.2	△ 7.6	3.1	6.8	2.8	△ 6.2	△ 15.3
	9	△ 2.1	21.9	42.1	2.5	△ 10.6	△ 10.8	△ 8.7	13.1	△ 48.1
	10	△ 3.8	△ 19.5	△ 7.6	△ 33.2	3.0	△ 10.9	8.2	70.6	58.7
	11	△ 9.7	△ 15.8	4.4	△ 29.6	△ 7.0	△ 9.7	△ 15.1	39.9	39.8
次	12	△ 6.3	△ 3.8	△ 9.5	3.9	△ 7.3	△ 4.5	△ 16.4	59.7	△ 42.4
	18年1月	△ 7.5	△ 20.0	△ 23.2	△ 15.5	△ 1.8	△ 2.2	2.8	7.0	△ 42.7
	2	△ 17.5	△ 25.9	△ 18.3	△ 36.5	△ 12.2	△ 13.3	△ 19.1	9.2	△ 4.3
	3	△ 34.4	△ 45.4	△ 56.3	△ 1.0	△ 14.5	△ 16.7	△ 26.7	26.6	16.0
	4	△ 12.1	9.7	7.7	14.5	△ 26.5	△ 40.0	△ 26.6	96.7	△ 42.7
	5	△ 18.4	△ 34.3	△ 35.8	△ 32.4	△ 11.9	△ 18.8	△ 13.4	7.1	97.4
累計	4月～6月	△ 16.0	△ 16.2	7.6	△ 42.2	△ 16.0	△ 27.2	△ 14.4	24.7	15.0

資料：国土交通省「建設工事受注動態統計調査」

機関別受注工事額の推移



政府建設投資関連指標

(単位:億円)

	公共機関からの受注工事				前払請負額 (※)	出来高 (総合統計)	公的固定資本形成
	総計	[国の機関]	[地方の機関]	大手50社			
16年度	120,127	43,227	76,900	30,111	137,354	203,170	240,205
17	107,719	35,538	72,181	24,738	129,622	197,376	239,885
17年Ⅲ期	35,193	10,429	24,763	7,715	37,857	45,040	56,100
Ⅳ	26,937	7,420	19,517	5,521	30,614	60,494	70,349
18年Ⅰ期	27,166	12,010	15,156	7,779	25,759	54,167	65,958
Ⅱ	15,470	4,760	10,711	3,247	31,244	34,486	44,569
18年1月	5,475	1,476	3,999	995	6,175	16,910	
2	6,035	2,121	3,915	1,720	6,055	17,445	
3	15,656	8,414	7,242	5,064	13,529	19,812	
4	3,439	1,708	1,731	893	11,402	14,168	
5	4,261	994	3,266	633	8,526	9,955	
6	7,771	2,057	5,714	1,721	11,316	10,363	

(対前年比、%)

	公共機関からの受注工事				前払請負額 (※)	出来高 (総合統計)	公的固定資本形成
	総計	[国の機関]	[地方の機関]	大手50社			
16年度	△ 5.6	4.1	△ 10.4	△ 0.9	△ 11.1	△ 13.9	△ 11.4
17	△ 10.2	△ 17.5	△ 6.1	△ 17.8	△ 5.6	△ 2.9	△ 0.1
17年Ⅲ期	0.4	13.6	△ 4.3	14.7	△ 3.0	△ 0.7	1.9
Ⅳ	△ 6.3	△ 13.4	△ 3.3	△ 7.6	△ 2.2	△ 3.3	△ 0.7
18年Ⅰ期	△ 26.8	△ 40.3	△ 10.8	△ 43.2	△ 11.8	△ 2.3	0.3
Ⅱ	△ 16.0	△ 16.2	△ 16.0	△ 12.8	△ 11.7	△ 8.5	△ 6.1
17年6月	△ 4.1	22.3	△ 11.6	△ 6.8	△ 4.7	△ 2.7	
7	0.1	10.2	△ 3.6	11.5	△ 12.7	△ 1.6	
8	3.9	6.5	3.1	0.7	△ 0.2	△ 0.8	
9	△ 2.1	21.9	△ 10.6	27.7	4.1	0.1	
10	△ 3.8	△ 19.5	3.0	1.0	△ 1.4	△ 1.7	
11	△ 9.7	△ 15.8	△ 7.0	△ 28.9	△ 0.9	△ 3.8	
12	△ 6.3	△ 3.8	△ 7.3	3.8	△ 4.7	△ 4.2	
18年1月	△ 7.5	△ 20.0	△ 1.8	△ 36.4	△ 6.8	△ 2.1	
2	△ 17.5	△ 25.9	△ 12.2	△ 12.5	△ 8.3	△ 1.2	
3	△ 34.4	△ 45.4	△ 14.5	△ 50.2	△ 15.4	△ 3.5	
4	△ 12.1	9.7	△ 26.5	12.6	△ 17.3	△ 4.3	
5	△ 18.4	△ 34.3	△ 11.9	△ 45.5	△ 0.7	△ 9.5	
6	△ 16.4	△ 21.1	△ 14.5	△ 2.6	△ 13.2	△ 12.7	
18年度累計	△ 16.0	△ 16.2	△ 16.0	△ 12.8	△ 11.7	△ 8.5	

資料：国土交通省「建設工事受注動態統計調査」、内閣府「四半期別国民所得統計速報」

北海道建設業信用保証(株)・東日本建設業保証(株)・西日本建設業保証(株)「公共事業前払保証統計」

注)公的固定資本形成は、名目、原系列値。

(※)公共機関からの受注工事が請負契約時点ベースでの請負契約の全体額を計上しているのに対し、前払請負額は前払保証契約時点ベースでの前払保証の対象となる請負金額を計上している等の理由により、必ずしも両者の傾向は一致しない。

### (3) 住宅

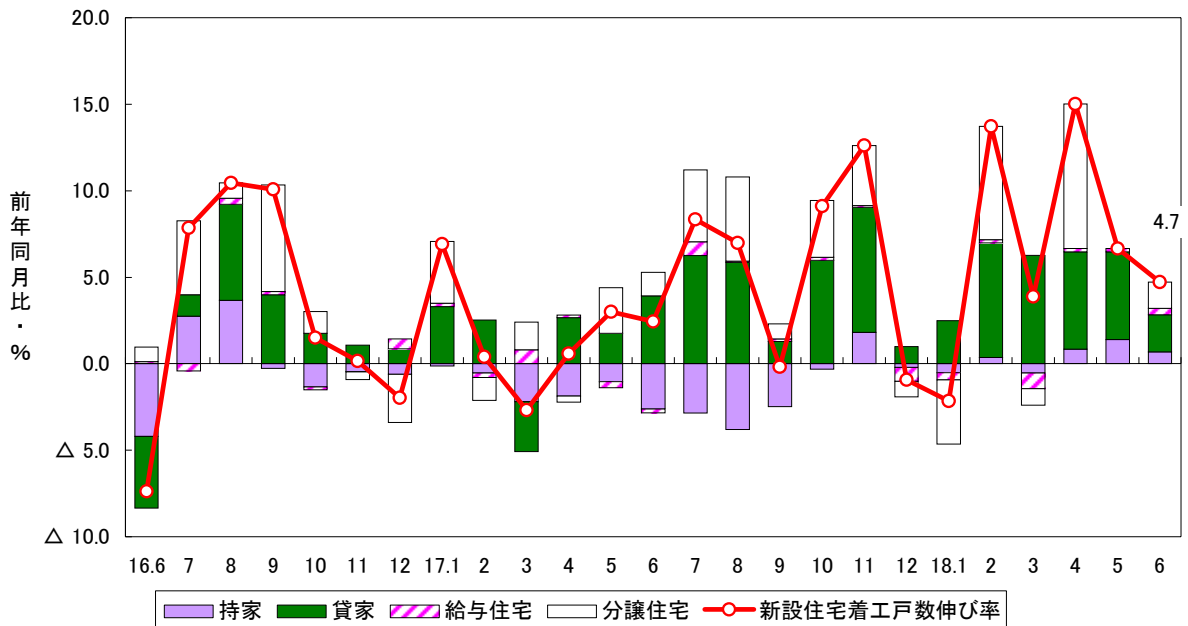
6月の着工は114,331戸。対前年同月比で見ると、持家、貸家、分譲住宅ともに増加したため、全体で4.7%増加（5ヶ月連続）した。

季節調整済年率換算値の推移をみると、平成17年4-6月期1,195千戸（同1.1%減）、7-9月期1,274千戸（同6.7%増）、10-12月期1,265千戸（同0.8%減）、平成18年1-3月期1,265千戸（同0.0%増）、4-6月期1,298千戸（同2.6%増）となった。

新設住宅着工戸数（戸、対前年比・%）

区 分		総戸数	総 計	持 家		貸 家	分 譲 住 宅		季節調整値 (年率換算) 総戸数 (千戸)
				公 庫 融 資	マ ン シ ョ ン				
年 度	15年度	1,173,649	2.5	2.1	△ 31.5	0.9	5.6	2.0	総戸数 (千戸)
	16	1,193,038	1.7	△ 1.6	△ 52.2	1.9	4.6	2.5	
	17	1,249,366	4.7	△ 4.0	△ 34.1	10.8	6.1	11.2	
月	17年6月	109,184	2.4	△ 7.7	△ 42.5	10.3	5.0	10.9	1,224
	7	115,343	8.3	△ 8.5	△ 43.2	17.3	14.0	25.9	1,309
	8	109,199	7.0	△ 10.9	△ 38.7	15.3	18.7	38.9	1,272
	9	108,086	△ 0.2	△ 8.1	△ 31.7	3.3	2.9	6.4	1,248
	10	115,822	9.1	△ 1.1	△ 23.0	14.6	11.0	18.4	1,282
	11	110,986	12.6	6.4	△ 6.7	17.0	12.2	19.7	1,303
	12	97,932	△ 0.9	△ 0.8	△ 15.1	2.3	△ 3.1	△ 2.7	1,169
	18年1月	92,899	△ 2.2	△ 2.1	△ 17.5	6.2	△ 10.8	△ 16.6	1,259
	2	96,995	13.7	1.2	△ 32.9	16.5	21.5	38.1	1,334
	3	94,318	3.9	△ 1.8	△ 26.2	17.2	△ 3.0	△ 4.3	1,224
	4	111,260	15.0	2.6	△ 25.6	14.3	30.0	55.8	1,335
	5	108,652	6.7	4.5	△ 25.7	13.1	0.0	0.6	1,294
6	114,331	4.7	2.2	△ 30.4	5.2	5.4	9.4	1,282	
累計	4月～6月	334,243	8.6	3.1	△ 27.3	10.6	11.1	19.9	—

新設住宅着工戸数の伸びと利用関係別寄与度



資料：国土交通省「建築着工統計調査」

<持家>

6月の着工は 34,125 戸。北陸、近畿及び四国では減少、その他の地域では増加し、全体では前年同月比 2.2%増加（3ヶ月連続）した。

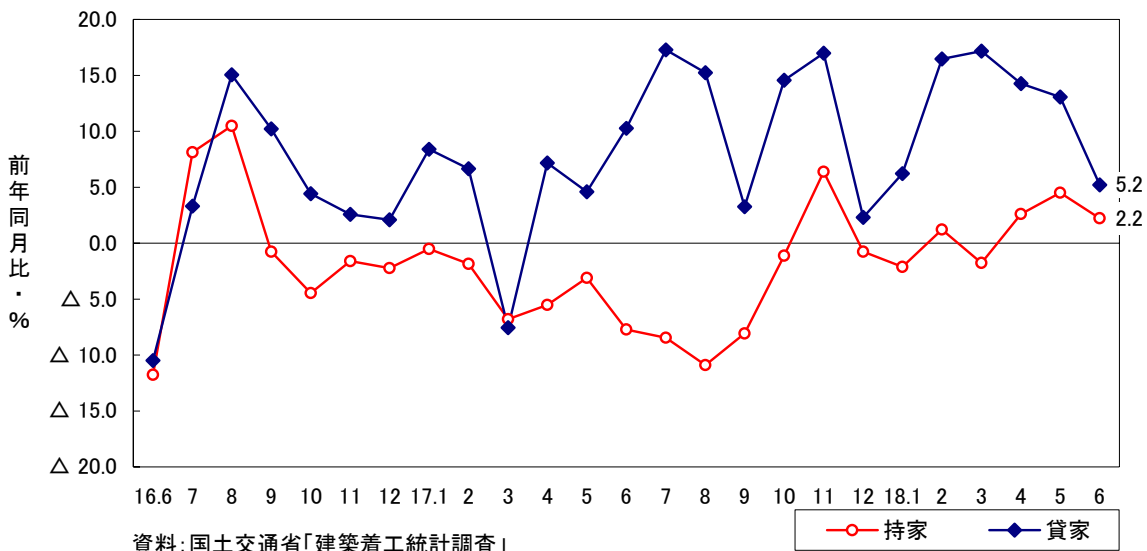
<貸家>

6月の着工は 47,238 戸。北海道、関東、近畿、四国及び沖縄では減少、その他の地域では増加し、全体では前年同月比 5.2%増加（15ヶ月連続）した。

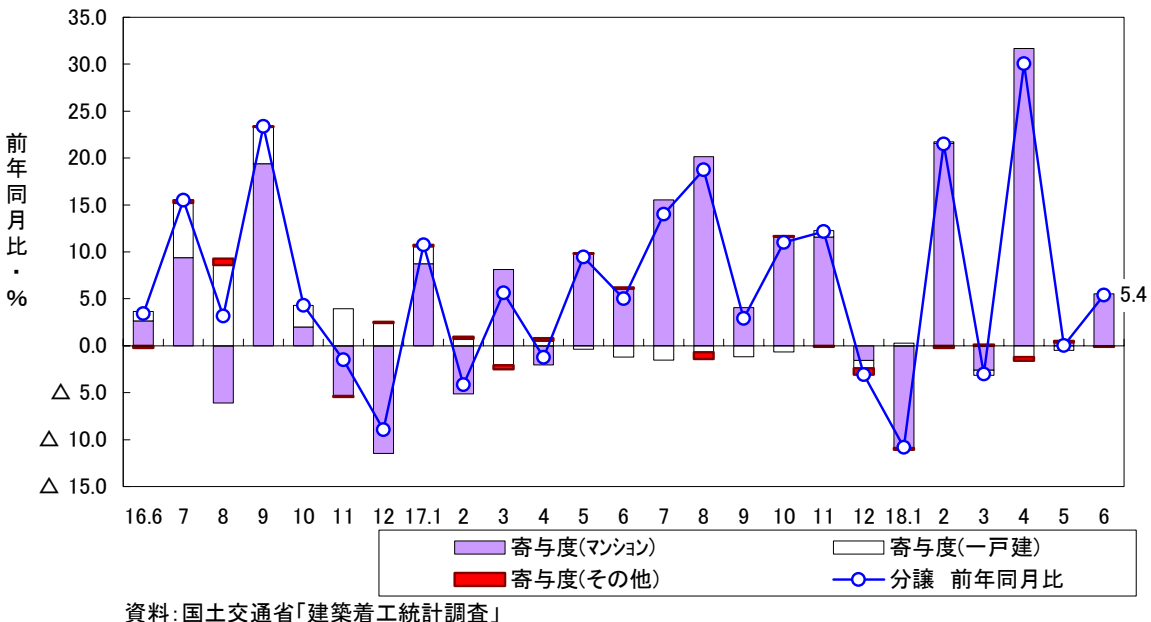
<分譲>

6月の着工は 32,012 戸。北海道、関東及び中部では減少、その他の地域では増加し、全体では前年同月比 5.4%増加（3ヶ月連続）した。マンションは 19,565 戸で、首都圏は減少（8,395 戸、同 8.7%減、2ヶ月連続）、中部圏は減少（1,073 戸、同 46.4%減、2ヶ月連続）、近畿圏は増加（4,216 戸、同 43.2%増、2ヶ月連続）、その他の地域は増加（5,881 戸、同 56.9%増、3ヶ月連続）し、全体では同 9.4%増加（3ヶ月連続）した。一戸建住宅は 12,332 戸で、同 0.1%減少（4ヶ月連続）した。

持家・貸家着工の推移



分譲住宅着工戸数に占めるマンション、一戸建寄与度の推移



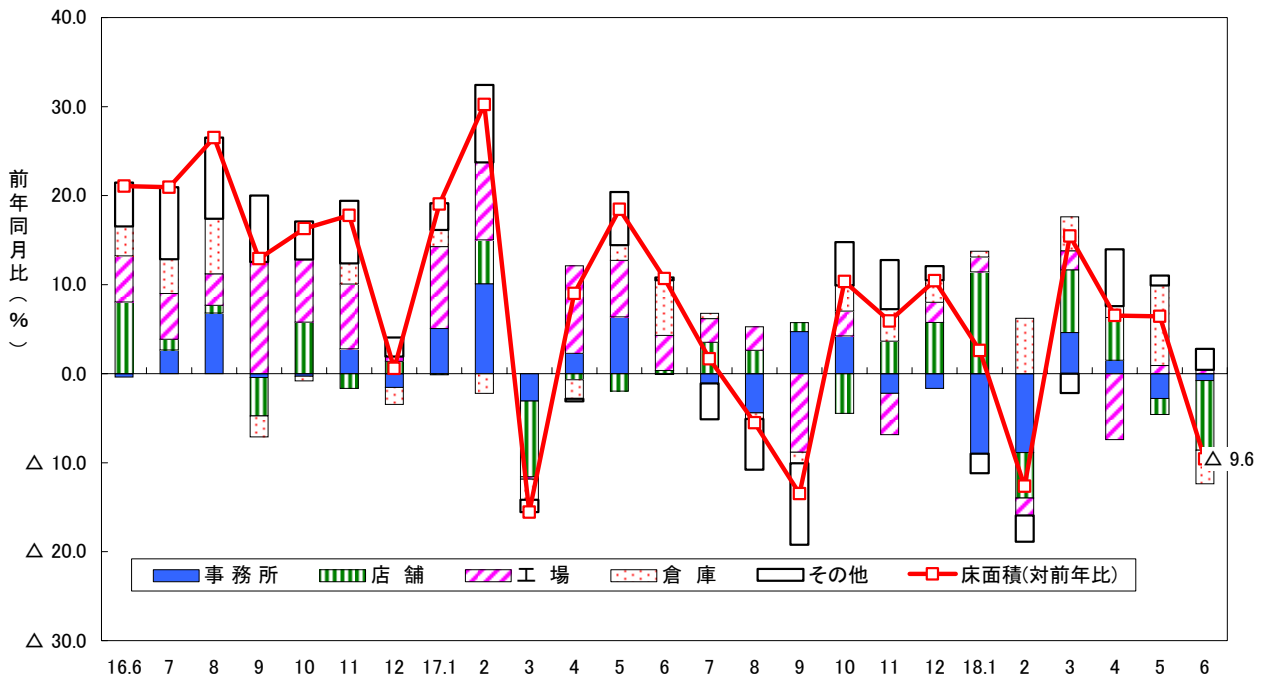
#### (4) 民間非居住建築

6月の着工床面積は588万㎡で前年同月比9.6%減少(4ヶ月ぶり)した。

着工床面積を用途別にみると、事務所は57万㎡で前年同月比8.2%減少(2ヶ月連続)、店舗は88万㎡で同36.6%減少(2ヶ月連続)、工場は146万㎡で同2.0%増加(2ヶ月連続)、倉庫は89万㎡で同21.6%減少(9ヶ月ぶり)した。

日本銀行「全国企業短期経済観測調査」(平成18年6月実施)で平成18年度の設備投資計画をみると、製造業(大企業)は前年度比16.4%増加(平成17年度同13.9%増加)となり、非製造業(大企業)は同8.9%増加(平成17年度同3.8%増加)となった。また、全産業(大企業)の生産・営業用設備判断DI(過剰-不足)をみると、「最近」は-2、「先行き」は-1となり、先行きの設備過剰感は改善傾向にある。

民間非居住用建築物着工床面積の伸びと用途別寄与度



(対前年比、%)

区分 年度年月		床面積					工事費予定額				
		総計	事務所	店舗	工場	倉庫	総計	事務所	店舗	工場	倉庫
年	15年度	8.0	11.2	2.5	13.7	9.4	8.8	25.1	△ 5.0	16.8	17.3
	16	13.8	9.6	7.5	36.0	8.8	9.7	7.1	8.5	44.2	5.1
	17	3.8	△ 4.4	9.7	6.8	16.3	6.2	△ 9.6	17.0	13.2	17.6
月	17年6月	10.7	△ 1.0	1.6	19.3	47.2	16.6	14.8	33.9	19.4	43.5
	7	1.7	△ 9.9	20.3	14.3	4.6	6.2	△ 10.1	20.8	35.1	△ 8.3
	8	△ 5.5	△ 30.1	15.5	16.6	△ 5.0	△ 11.4	△ 58.3	8.7	23.7	5.5
	9	△ 13.5	66.5	6.3	△ 37.0	△ 10.7	△ 12.0	89.0	△ 10.0	△ 36.7	△ 4.4
	10	10.3	44.8	△ 20.8	14.3	26.8	17.3	46.7	3.2	16.3	24.0
	11	5.9	△ 20.6	26.5	△ 20.4	29.3	8.3	△ 28.1	21.2	△ 10.3	25.2
次	12	10.4	△ 15.7	32.5	11.2	23.5	15.0	0.1	16.1	25.4	16.7
	18年1月	2.6	△ 54.4	97.0	7.1	5.8	△ 7.9	△ 66.3	110.4	5.0	2.9
	2	△ 12.7	△ 52.0	△ 25.1	△ 9.0	77.3	△ 18.3	△ 71.4	△ 19.9	14.5	80.5
	3	15.4	41.6	44.4	10.7	27.8	23.7	68.8	23.9	37.9	36.5
	4	6.5	16.3	28.2	△ 24.0	10.3	18.8	54.6	49.7	△ 13.6	8.3
	5	6.4	△ 19.8	△ 10.7	3.9	71.1	△ 1.4	△ 36.1	△ 21.3	17.6	61.8
累計	4月~6月	0.6	△ 8.2	△ 36.6	2.0	△ 21.6	△ 9.5	△ 18.9	△ 41.4	△ 7.3	△ 14.2

資料：国土交通省「建築着工統計調査」

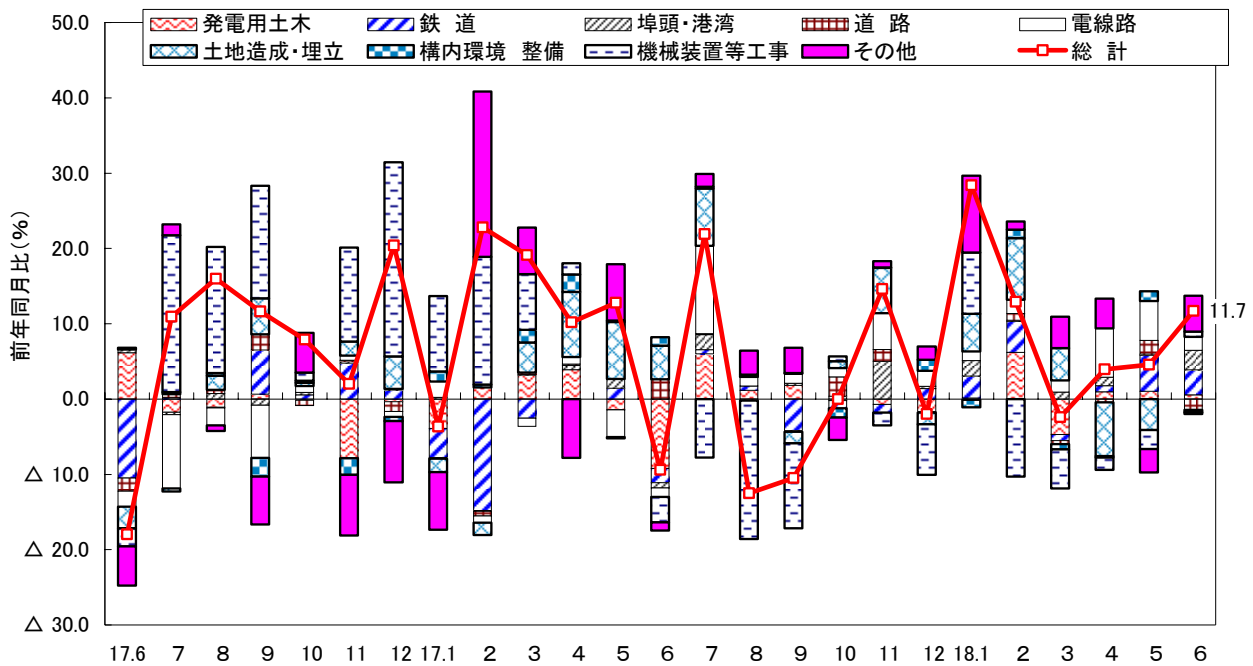
(5) 民間等からの受注工事（土木工事及び機械装置等工事）

6月の土木工事及び機械装置等の受注工事額（1件あたり500万円以上の工事が対象。以下同じ。）は2,372億円で、前年同月比11.7%増加（3ヶ月連続）した。

発注者別でみると、電気・ガス・熱供給・水道業（前年同月比40.7%増、寄与度+4.2）、運輸業（同19.8%増、寄与度+4.0）等が増加し、サービス業（同18.0%減、寄与度-2.1）、金融・保険業（同83.9%減、寄与度-0.7）等が減少した。

工事種類別でみると、その他の土木工事（寄与度+5.3）、鉄道工事（寄与度+3.3）等が増加し、道路工事（寄与度-1.4）、ゴルフ場建設工事等（寄与度-0.4）が減少した。

民間等からの受注工事額の伸びと用途別寄与度



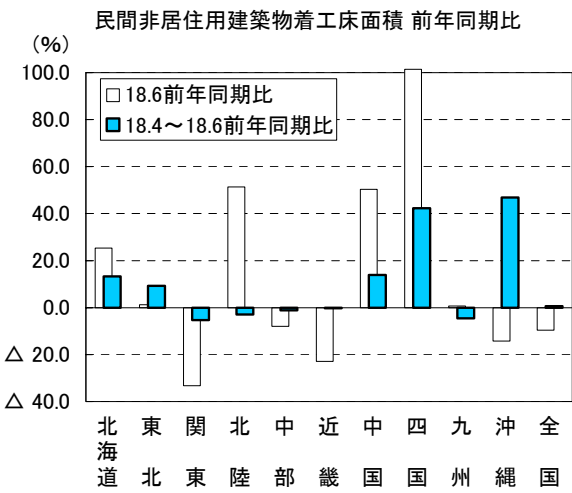
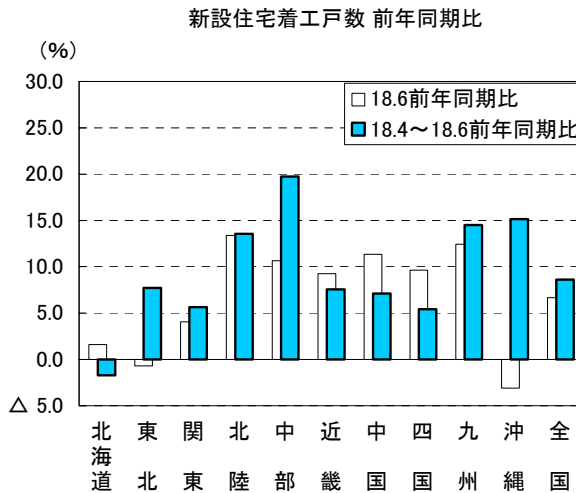
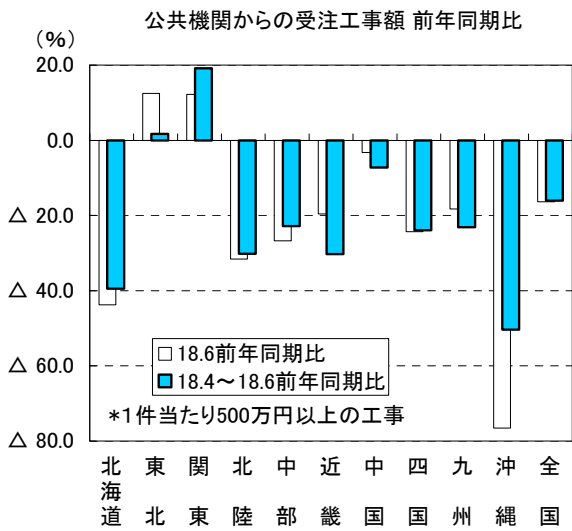
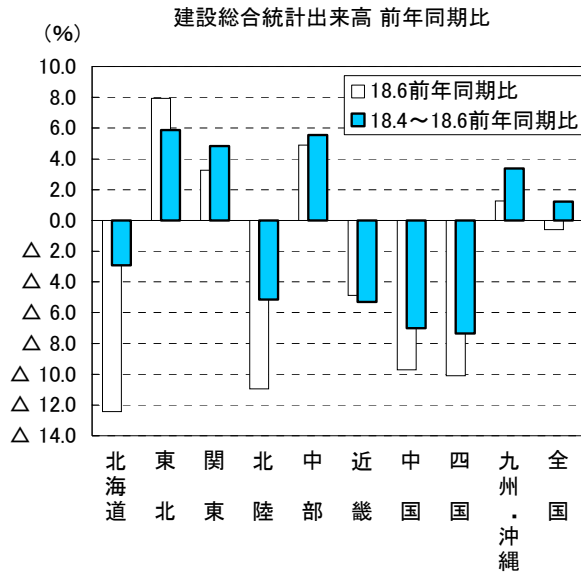
(対前年比、%)

		総計	発電用土木	鉄道	埠頭・港湾	道路	電線路	土地造成・埋立	構内環境整備	機械装置等工事
年	15年度	1.4	2.5	△ 8.2	△ 34.1	7.8	5.6	0.6	41.0	△ 1.7
	16	5.5	4.7	△ 11.4	4.6	△ 5.9	△ 15.2	7.8	△ 0.8	30.9
	17	3.6	△ 5.3	△ 0.8	120.6	38.1	18.0	51.0	7.2	△ 11.9
月	17年6月	△ 9.4	△ 86.9	△ 12.2	△ 50.0	488.0	△ 9.3	79.8	41.6	△ 9.1
	7	21.9	370.6	4.2	271.8	7.3	91.6	103.9	6.5	△ 16.8
	8	△ 12.5	92.1	3.9	△ 0.8	△ 12.3	13.0	1.1	6.9	△ 36.3
	9	△ 10.5	95.8	△ 23.0	91.2	△ 6.0	15.3	△ 16.1	4.1	△ 25.7
	10	△ 0.0	△ 13.1	△ 7.5	36.1	399.9	8.4	13.9	△ 30.2	1.3
	11	14.6	△ 22.7	△ 5.8	705.2	116.1	42.0	92.6	3.0	△ 4.0
	12	△ 2.0	△ 54.3	10.9	44.8	△ 7.3	23.8	△ 17.4	60.6	△ 13.6
	18年1月	28.4	5.9	23.1	218.7	△ 10.1	6.4	79.5	△ 26.0	18.6
	2	12.9	231.7	36.0	31.6	120.0	20.5	161.9	50.7	△ 19.4
	3	△ 2.4	△ 76.1	△ 3.3	133.7	△ 36.9	25.8	49.5	△ 30.6	△ 14.4
	4	3.9	23.4	6.2	103.6	△ 28.0	43.9	△ 49.4	△ 3.1	△ 4.8
	5	4.6	87.7	46.1	9.8	256.8	75.1	△ 32.7	30.2	△ 6.2
6	11.7	37.6	21.3	333.6	△ 41.1	14.2	△ 2.8	△ 5.7	1.8	
累計	4月～6月	6.7	38.6	23.7	106.5	1.3	39.7	△ 30.1	6.9	△ 3.1

資料：国土交通省「建設工事受注動態統計調査」



(6) 地域別動向



区分	投資	受注・着工				ベ		ス		企業		労働	
	建設総合統計 4月~6月	公共機関	民間非	新設	民間等	建設業	建設技能		有効求人				
		受注	居住用	住宅	受注		倒産	労働者不足率	倍率				
地域	前年比(%)	前年比(%)	前年比(%)	前年比(%)	前年比(%)	前年比(%)	6月	対前年増減	6月	対前月増減			
北海道	△ 2.9	△ 39.5	13.3	△ 1.7	18.8	58.3	3.4	0.7	0.61	△ 0.01			
東北	5.9	1.7	9.3	7.7	35.1	△ 7.3	△ 0.8	△ 0.1	0.86	0.01			
関東	4.8	19.2	△ 5.4	5.7	19.3	△ 5.2	2.4	2.6	1.29	0.02			
北陸	△ 5.1	△ 30.2	△ 2.9	13.6	10.5	100.0	0.4	△ 1.3	1.32	0.02			
中部	5.5	△ 22.8	△ 1.2	19.7	△ 15.6	59.6	△ 0.3	△ 0.5	1.62	0.03			
近畿	△ 5.3	△ 30.3	△ 0.3	7.6	2.2	14.3	2.3	1.2	1.07	△ 0.01			
中国	△ 7.0	△ 7.2	14.0	7.1	△ 20.6	80.0	△ 0.3	1.0	1.17	0.00			
四国	△ 7.4	△ 23.9	42.4	5.4	△ 17.9	150.0	0.0	0.3	0.92	0.02			
九州	3.4	△ 23.1	△ 4.6	14.5	11.3	6.5	0.8	0.9	0.77	0.02			
沖縄	—	△ 50.4	46.9	15.2	15.3	125.0	△ 0.2	△ 0.2	0.45	0.00			
全国	1.2	△ 16.0	0.6	8.6	6.7	15.0	0.9	0.5	1.08	0.01			

資料：国土交通省「建設総合統計」、「建設工事受注動態統計調査」、「建築着工統計」、「建設労働需給調査」

帝国データバンク「全国企業倒産集計」、厚生労働省「一般職業紹介状況」

注) 労働に関する指標の対前年比、対前月比の単位はポイント。建設技能労働者不足率は、プラスは不足、マイナスは過剰を意味する。建設総合統計の「九州」欄は、沖縄を含む値となっている。